

2019年度 安全管理プロジェクト活動報告

降矢久美子 加藤美佐 小山哲夫 佐藤亜矢子 杉山孝雄 設楽浩明
田中協子 徳永誠 平原実留 川原藤樹* 小林邦宏*** 川田良暁***
物質・生命科学系 *電気電子情報系 ***機械建設系

1. はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に2019年度の主な活動について報告する。

2. 今年度の活動報告

2-1 薬品管理システムの管理・運用支援

総合技術支援センターでは、埼玉大学で購入したすべての毒劇物薬品を薬品管理システム(IASO)へ一括登録している。本プロジェクトは、IASOに登録されている基本データ(薬品データベースやユーザーに関する基本データなど)の管理だけでなく、薬品の使用や廃棄の際のIASO利用法に関する問い合わせにも対応している。また、年度初めのIASO説明会では、当プロジェクトのメンバーが講師を務めている。

本年度は、IASOに登録されている全ユーザーIDに対し、基本情報の確認作業を行った。これは、人事異動や保管場所の変更などであってもユーザーからの変更申請がなく、現在の薬品使用者や保管場所の情報がIASOに適切に登録されていないケースが多く見られるようになったためである。そこで全ユーザーに現在のIASO登録情報を送付し、変更があれば申請書を提出するよう要請した。この作業により、最新の基本情報が整備された。今後はこのような確認作業を定期的に行い、システム運用を支援していく予定である。

2-2 安全管理についての情報提供・収集

教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACES)より配信されている「ACES ニュースレター」の記事から、学内に周知すべき事項を編集した「化学物質の安全管理かわら版」を学内向けに発行している。本誌は全学の安

全衛生委員会の資料として活用されている。2019年度はトピックスとして、「新潟大工学部での核燃料物質の放置」、「大阪電気通信大での劇物の紛失」等を取り上げて、化学物質の適切な管理をよびかけた。

ヒヤリハットについては、学生実験時のアンケート調査や研究室への呼びかけなどにより、事例の収集につとめた。今年度集まったヒヤリハットは、来年度末のヒヤリハット集作成に向けて、原因や対策についてグループ内で話し合いまとめていく。

また、「第8回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」、「第13回化学物質管理担当者連絡会」、「第12回関東甲信越地区大学安全衛生研究会」、「第35回大学等環境安全協議会技術分科会」に参加し、情報発信や意見交換、情報収集を行った。



北関東地区技術系職員安全管理
ワークショップ

2-3 その他の活動

今年度も応用化学科からの依頼を受け、学生実験の安全教育を担当した。また、理工研安全衛生委員会にも継続して参加している。

3. 今後の展開

高度な教育・研究成果を期待される大学の作業場では、現場に即した安全管理のための工夫が必要である。そのために、他機関から得た貴重な安全管理情報を、もっと積極的に学内にフィードバックしたいと考えている。そして、教員・学生を技術面で支援する技術職員として、その経験や知識を生かし、今後も埼玉大学の安全管理に貢献していきたい。